

2024年12月上旬配本予定

藤田文江全集

谷口哲郎 編

戦前・鹿児島^{さつご}の知られざる詩人・藤田文江。
わずかな生涯の中で、その身の内に躍動する漆黒を見つめた藤田の「聲」を、いま呼び起こす。
左川ちか、永瀬清子と同時代を生き、中野重治に高く評価された詩人の初の全集。
唯一の詩集『夜の聲』全篇と未収録詩篇、散文、書簡、編者による解説、妹・林山鈴子氏へのインタビューを収録。

夜の聲は何故こゝまでやつて来た。／おまへの咳を聞いてみると／私はたまたま寂しくなる。／然し私は私の里^{ナタアル} おまへに媚びるよ／私はおまへと共にある時ほんのわづか富んでゐるのだから。

藤田文江（ふじた・ふみえ）

一九〇八年鹿児島生まれ。短かった人生の約十二年間を植民地台湾で送り、本土（鹿児島）に戻って女性だけの詩誌『くれなる』に参加。その後『詩神』投稿欄の全国の若き詩人たちが集った詩誌『蠶』の同人に。一九三三年『万国婦人子供博覧会』の歌詞一等当選。同年、唯一の詩集『夜の聲』を編集したが出版直前に二十四歳で病死。

編者・谷口哲郎（たにぐち・てつろう）

一九六六年鹿児島生まれ。詩誌『オドラデク』発行。詩誌『野路』『天秤宮』『詩創』同人。

藤田文江全集

谷口哲郎
編

夜の聲は何故こゝまでやつて来た。おまへの咳を聞いてみると私はたまたま寂しくなる。然し私は私の里おまへに媚びるよ私はおまへと共にある時ほんのわづか富んでゐるのだから。

戦前・鹿児島^{さつご}の知られざる詩人・藤田文江
わずかな生涯の中で、
その身の内に躍動する漆黒を見つめた
藤田の「聲」を、いま呼び起こす

左川ちか、永瀬清子と同時代を生き、
中野重治に高く評価された詩人の初の全集
唯一の詩集『夜の聲』全篇と未収録詩篇、散文、書簡、
編者による解説、妹へのインタビューを収録

書肆 子午線

装幀＝稲川方人

四六判・上製／460頁（口絵8頁）

定価 3,000円＋税

ISBN978-4-908568-48-0 C0092

収録内容

詩集 夜の聲

詩集未収録詩篇

散文

書簡

年譜

作品年譜

初出一覧

藤田文江一次・二字関連資料

特別資料 林山鈴子インタビュー

解説 谷口哲郎

▶ご注文はツバメ出版流通まで

FAX 03-3721-1922

TEL 03-6715-6121 E-mail info@tsubamebook.com http://tsubamebook.com

貴店名（番線印）

書肆子午線 新刊

info@shoshi-shigosen.co.jp

返品条件注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人

ご注文数

藤田文江全集

ISBN978-4-908568-48-0 C0092

四六判・上製／460頁／定価＝本体 3,000円＋税

ご担当

様

冊